

田 辺 加 恵

(経済学部)

「移動する人びとと都市社会」×スペイン史



サンティアゴ巡礼路

東西を問わず、古来より多くの人びとが聖地へ向けて旅立ってきました。通信や交通が発達した現代でさえ巡礼にはさまざまな苦勞が伴いますが、中世には命を脅かす危険すらありました。スペインのサンティアゴ巡礼も例外ではありません。それでも人びとが歩みを止めなかった背景には、信仰上の赦しだけでは説明しきれない、達成感や自己変容への希求といった eudaimonic well-being に通じる動機が潜んでいたのではないかと考えています。

また、私は中世サンティアゴ巡礼に関する史料を通して、人びとの「移動」が持つ意味を検証するとともに、巡礼者や商人など外来者を受け入れた都市の対応にも注目してきました。歴史における「移動」と「受容」の過程をたどることは、共同体が「外来者」「他者」とどのように向き合ってきたのかを理解する上で重要です。

中世という一見遠い世界の事例であっても、そこに見られる課題には現在と通底する側面があります。人びとがより良い生を求めて模索してきた過程を分析し、現代社会における「豊かさ」のありかたを歴史的に考察する視座を得ていきたいと考えています。



所 属

経済学部

研究テーマ

- 巡礼を含む移動の歴史的研究
- 外来者受容と都市社会の制度的展開の解明
- 中世都市の空間構造の歴史的分析

キーワード

道、移動、聖人崇敬と巡礼、外来者受容、中世都市

聖ヤコブ崇敬とサンティアゴ巡礼の歴史

スペイン北西部の町、サンティアゴ・デ・コンポステラはカトリックの三大聖地とされています。9世紀にこの地でキリストの十二使徒のひとり、聖ヤコブの遺骸が「発見」されて以来、ヨーロッパ各地から多くのキリスト教徒が参詣に向かいました。今日ではキリスト教徒に限らず、世界中から年間約50万の人が「巡礼者」としてここを訪れています。

共著書『聖ヤコブ崇敬とサンティアゴ巡礼—中世スペインから植民地期メキシコへの歴史的つながりを求めて』（春風社、2022年）では、聖ヤコブ崇敬の始まりとスペイン中世におけるその発展について述べました。コラムでは、現代のサンティアゴ巡礼についても触れています。

